

## <ガングリオン>

他の病気に比べてあまり馴染みの少ない病気だと思われます。しかし、聞いたことが少ないだけで実は身近な病気なのです。

ガングリオンとは、ゼリー状の物質が詰まった袋状の良性腫瘍が関節の近くにでき、20代から50代にかけて起こりやすく特に若い女性に多く発症しています。米粒状の大きさから、目で見てすぐわかるくらい比較的大きいものもありますが常に痛みを伴うわけではありません。ですが、大きくなってくると神経や腱を圧迫し痛みやしびれを伴う場合もあります。

多くは手の関節の回りに発生しますが、手以外の関節でもみられることがあります。膝や背骨の周囲にもできます。膝や背骨も関節であり、少量ですが関節の中にある関節液が袋状になって溜まることで発生します。また、指の腱の浮き上がり防止をしている腱鞘も潤滑液である滑液が袋状になりガングリオンを形成するがあります。

手関節周囲の腫瘍には悪性のものもあり、鑑別してもらうためにも整形外科を受診しましょう。ガングリオンは無症状なら、放置しても心配はありません。しかし、痛みはないけど大きくなるもの、痛みが強いもの、神経が圧迫されてしびれがあるものは治療が必要になります。

患者様の症状にあった治療方法を考え治療していきますので、気になることがありましたら一度診察へ！